

国際交流センター ニュースレター

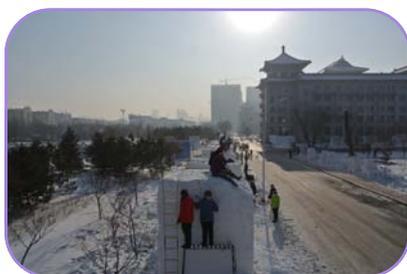
第5回哈爾濱工程大学雪像大会



【1月4日（金）～7日（月）・中国ハルビン】

本学にとって二年ぶり4回目の参加となった雪像大会が、本学の国際交流締結校であるハルビン工程大学（中国）において開催された。大会には、日本からは本学（学生3名・引率1名）が唯一の参加校で、その他、タイ、マレーシア、ロシア、アメリカ、イギリス、台湾からの海外チームと中国各地の大学からのチームの計53大学が参加して行われた。大会期間中は、マイナス30度と例年以上の冷え込みで、

体力的にも精神的にも厳しい屋外での制作となった。作品は、鮭をくわえた木彫りの熊（「小熊」）をイメージし、3m×3m×3.5mの雪の直方体を大きなノミやヤスリで削りながら行われた。寒さとの戦いもあったが、結果本学としては過去最高の3等賞（銅賞）を受賞することができ、努力が報われた瞬間でもあった。毎年、大会のレベルが上昇しているとのことで、次回の大会に向けて、更なる技術の向上が必要だと実感させられた。



目次：

第5回哈爾濱工程大学雪像大会	1
留学生スキー研修	2
インターナショナルC アワー	2
アイスクャンドル点灯式	3
第6回公開講座	3
短期留学生修了式	4
留学生研修旅行	6
留学生のタベ	6
あとがき	6



留学生スキー研修



【1月10日（木）・ノーザンアークリゾート】

昨年より多くの留学生が心待ちにしていたスキー研修が、スキー日和の天候の下実施された。当日は、絶好のグレンデコンディションの中、約50人の留学生と日本人チューターがスキーを楽しんだ。今回も学生のレベル別に3つのグループに分かれ、スキースクールのインストラクターから指導を受けながら研修が行われた。全体の約半数は初心者で、午前中は、スキーを両手にグレンデを歩いて登り、上からおそ

るおそる滑り降りていたが、午後からは、リフトで中腹まで登り、転ばずに滑り下ることができるくらい短時間で上達を遂げていた。一方、中・上級者グループは、新雪に美しいシュプールを描き、終了時間ギリギリまでスキーを楽しんでいた。今年も皆最後まで怪我なく楽しむことができ、雪国での留学生活の思い出になったのではないだろうか。



インターナショナルCアワー

【1月30日（水）・研究協力棟1階】



2013年最初のインターナショナルCアワーは、二年ぶりとなる「餅つき」でスタートされた。当日は、多くの市民の方々にも協力していただき、総勢60人を超えるにぎやかなイベントとなった。参加したほとんどの留学生が餅つきを経験するのが初めてで、餅つきに興味津々であった。中には、勢いよく杵を振り上げるたくましい留学生の姿もあり、笑い声や歓声に包まれた楽しい餅つきとなった。つくたての餅は、「つぶあん」、「ごましょうゆ」、「きなこ餅」として振る舞われ、舌鼓を打っていた。特に留学生に評判がよかったのは「きなこ餅」で、5キロのもち米から作った餅は、あっという間に平らげてしまった。留学生達には、おいしい「日本の味」を堪能してもらえたようであった。



アイスクャンドル点灯式

【2月2日（土）・ラウンジ裏中庭】

OFIC（国際交流サークル）主催のアイスクャンドル点灯式が、2月2日（土）午後5時から行われた。当日まで、西出部長（マテリアル2年）をはじめ、メンバー全員が一体となり、アイスクャンドルの製作とかまくら作りの準備を行ってきた。今年は、2月に入り多少気温が上昇したこともあり、アイスクャンドルが多少溶けたこともあり、主催者泣かせではあったが、当日は無事にキャンドルに明かりが灯され、暖かいキャンドルの光がかまくらを照らし、幻想的な光景に包まれた。また、当日は、御汁粉も振る舞われ、心も体も温まる一時となった。



第6回公開講座

【2月2日（土）・ミーティングルーム2】

今年度初めて、本センターとして公開講座「異文化理解講座」を実施し、土曜日にも関わらず、41名の市民の方々が受講してくれた。講座は全3部から成り、第1部「台湾を知る（鈴木特任講師）」、第2部「日本語学習からみた日本語（末繁特任講師）」、第3部「現代ドイツを知る（許斐センター長）」という題目で講演を行った。受講者は、海外に興味を持っている人や、自ら台湾やドイツに渡航経験がある人、普段から外国語としての日本語を教えている人など、人それぞれであったものの、全体を通じて、約8割の人に満足をしてもらうことができた。午後1時30分から始まった3時間の講座もあっという間に過ぎ、終わるころには日が多少沈みかけていたが、受講者に楽しんでいただくことができ、講師を務めた三教員も、充実感でいっぱいだった。来年度も時期は不詳であるが、テーマを変えて実施したいと考えている。

短期留学生修了式

【2月13日（水）・講堂】

2012年度後期は、10名の短期留学生が留学を終了し、当日修了証書が許斐ナタリー国際交流センター長より授与された。半年から一年の留学を無事に終え、修了式を迎えられたことを留学生はもとより、教職一同安堵の念でいっぱいだった。式では、許斐センター長からの告辞に次ぎ、教職員から祝辞があり、その後、留学生からそれぞれ一分間の答辞があった。一人ずつ日本での生活の思い出や感謝の気持ちをすべて日本語で発表してくれ、日本語の上達ぶりに感心した。

これからも、母国と日本との架け橋として、また、国際的に活躍する人材として成長していくことを期待している。修了おめでとう。



教職員祝辞

許斐ナタリー国際交流センター長

皆さん、修了おめでとうございます。北見工業大学で学ぶことを選んでくれて、とても嬉しいです。来てくれたこと、心から感謝します。日本語の勉強、講義、ゼミ、実験、レポート作成に多くの時間を費やしたことと思います。母国から遠く離れた日本で、学生生活を送り、慣れない異国での生活に加え、教育の異なる国で勉強することの困難さは並大抵ではなかったことと思います。日本語の難しさにも苦しめられたのではないのでしょうか？楽しいことばかりではなかったと思いますが、辛い経験もしっかり自分の経験として活かし、今後それぞれの道を歩んでいってください。本日、この日を迎えられた皆さんの努力に敬意を表します。母国に帰ってからも、日本での経験を活かしてがんばってください。

清野千春研究協力課長

留学生の皆さん、短期留学修了おめでとうございます。皆さんと直接あう機会は、あまりありませんでしたが、本日無事に皆さんが修了式を迎えることができ、大変嬉しく思っております。皆さんは、日本で文化の違いに戸惑いながらも様々な経験をされ、皆さんの思い出を作られたことと思います。日本で経験したこと、学んだこと、そして日本でできた友達は、皆さんの一生の宝ものになることでしょう。また、日本を、北見工業大学を第2の故郷として忘れないことを心から願っています。今後も皆さんが多くの方と出会い、成長し続け、新しい時代を切り開く力となっていくことを、期待しております。本日は、おめでとうございます。

学生の思い出

牟雨 (中国・東北電力大学・M1)

Mu Yu (China/Northeast Dianli University/M1)

この一年間ではいろいろな体験もすることができました。初めての海外暮らしにはじまりカーリング、ダイビング、アルバイト、旅行もしました。京都で触れた伝統的な日本文化が一番印象に残っています。龍安寺の石庭、清水の舞台など、大変素晴らしかったです。

アンティ (フィンランド・タンペレ工業大学・4年)

Muulu Antti Jalmary (Finland/Tampere University of Technology/Senior)

日本に住むのは高かった。でも1年間で、私は5年間のけいけんをもらった。私はいろんなやまと火山にのぼって、はじめてのりょうりを食べて、いろんな大きな城に行って、おんせんにはいった。すばらしいりゅうがくせいとにほんじんの友達ができた。私たちはいっしょにたくさんあそんでいました。

日本の人たちは、はすかしいせいいかくをもっている人が多いので、友達をつくる機会があまりなかったけど、サークルに入っている日本人友達をたくさん作って本当によかった。学校以外に韓国が好きな日本人の方のおかげで、楽しいけんもたくさん出来て、良い思い出をもって帰ります。

キム ヨナ (韓国・江原大学三陟キャンパス・3年)
Kim Yo Na (Korea/Samchok Campus, Kangwon National University/Junior)



ソングン (韓国・江原大学三陟キャンパス・3年)
Song Hyun Jun (Korea/Samchok Campus, Kangwon National University/Junior)

今思い出したら私が北見に来たとき、ずっと面白いことばかりでした。毎月のCアワーで留学生たちとか日本人と話しながら遊んで、毎週の週末にはサッカーをして、北見に住んでいる小母さんと小父さんが留学生たちに招待してくれる等色んなことがありましたが、特に記憶に残るのは三つがあります。ミニゴルフ、屈斜路研修所、台湾人と行った札幌。色々なことのおかげで私に良い経験になると思います。

ウンドラー (モンゴル・モンゴル科学技術大学・3年)

Bat-Erdene Undraa (Mongolia/Mongolian University of Science and Technology/Junior)

みんなのおかげで、たのしい いちねんを すごしました。ありがとうございます。きたみは ひとが やさしくて、とても すみ やすい ところです。しぜんが うつくしいから、いっぱい きれいな しゃしんを とりました。みんな、いちねん おせわに になりました。おげんきで ください。

徐振鋒 (中国・東北林業大学・3年)

Xu Zhen Feng (China/Northeast Forestry University/Junior)

最初こちらで生活を始めたばかりの時は慣れなくて、非常に苦しく感じたこともありましたが、中国人留学生の先輩や日本人の先生、日本人の友達がいろいろお世話をしてくださったので、一人でもあまり寂しくはなかったです。私は日本に来て、日本の文化・経済・社会・風俗・習慣をたくさん学ぶことができました。しかし一年間という留学生活期間はそれらをいろいろ深く知るには短く、もっといろいろ知りたかったです。

張春蕊 (中国・東北電力大学・M1)

Zhang Chun Rui (China/Northeast Dianli University/M1)

北見でたくさんの成果を得ました。初めてアルバイトをし、初めて料理を作ったし、初めて野菜を植えた。そして、初めて一人暮らしをしました。でも、それはぜんぜん辛くなかったです。たくさんの友達ができたのだから。みんな一緒にバイトして、一緒に焼肉して、一緒にあっちこっちへ遊びに行きました。一緒に悲しくなる、一緒に楽しんだりしました。

キム ミンス (韓国・江原大学三陟キャンパス・3年)

Kim Min Su (Korea/Samchok Campus, Kangwon National University/Junior)

財布の事情が大変でした。それでバイトを始めましたが、その時も本当に面白い経験でした。携帯工場での組み立て作業、夜明けの早い時間に船に乗るホタテのバイト、それと私の好きなポテトチップスのカルビー工場でジャガイモを選別するバイト、養鶏場で鶏を箱に入れるバイト(匂いがひどくて一番大変でした)。まだ立派な日本語の実力ではないが、カーリングの国家代表選手を通訳するバイトなど様々な経験をしました。

黄樂 (中国・東北林業大学・3年)

Huang Le (China/Northeast Forestry University/Junior)

今回の留学経験は私の今後の生活に影響をもたらすに違いない。自分の人生は自分の力で作るということをちゃんと痛感した。どんなに辛くても、頑張っていればきっといいことがあると信じているし、私はこれからの人生に自信をいっぱい持っている。また、学校にもう一度感謝したい。学校のおかげで、この留学は私の大学生活における最高の宝物になった。

顏弘哲 (台湾・勤益科技大学・3年)

Yen Hung Che (Taiwan/National Chin-Yi University of Technology/Junior)

はじめて日本きたとき、日本の生活に慣れませんでした。でも、北見工業大学のみんなはとても親切でしたから、私は早く適しました。いろいろな人にあいました。私はたくさん友達を作りたかったです。そして、日本人、中国人、韓国人、モンゴル人など友達ができて、みんなよかったです。毎月のCアワーは楽しかった。Cアワーで三味線を弾きました。もちを作りました。クリスマスパーティーなど、いろいろ面白かったです。楽しかったです。

留学生研修旅行

【2月17日(日)～18日(月)・紋別】

第28回北方圏国際シンポジウム『オホーツク海と流水』の開催に合わせ、共催をしている本学からも教職員他、留学生も参加して、研修旅行が行われた。初日は、開会式とレセプションに参加し、研究者や市民の方々との交流を図った。その後、ホームステイ先で、一泊を過ごした。昨年までは、一部ホテルでの宿泊もあったものの、現地の方々意向や、留学生からの希望もあり、今回から全留

学生が日本人家庭に宿泊することになった。留学生たちは、一晩という短い時間を、ホストファミリーの方々と歓談しながら、楽しんで過ごしていた。二日目は、オホーツクタワーの見学や砕氷船「ガリンコ号」の乗船を楽しみ、オホーツクの自然と暮らしの理解を深めた。二日間という短期間ではあったが、この時期ならではのオホーツクを十分に味わえたようである。



留学生の夕べ

【3月4日(月)・アトリウム】

北見工業大学では、3月4日(月)に同大学コミュニケーションアトリウムにおいて今春卒業・修了する留学生を囲む交流の夕べが、国際交流に関係する市民の方々や本学教職員など約110人の出席を得て盛大に開催された。鮎田学長の挨拶に続いて、今春卒業・修了する留学生を代表して、大学院博士前期課程機械システム工学専攻2年次のリディアナ ビンティ ロスランさん(マレーシア)から日本での6年間におよぶ留学生生活の思い出やお世話になった方々への感謝と将来の抱負などのスピーチが行われた後、学長から卒業・修了する留学生一人一人に記念品が贈呈された。引き続き開催された交流会では、アトラクションとして卒業・修了する留学生本人の自己紹介スライドの上映、在学留学生の日本の歌の披露やマジック、教員によるバンド演奏などが行われ、会場から盛大な拍手を受けた。留学生は日頃からお世話になっている支援団体の方などの記念撮影や思い出話に興じるなど楽しいひとときを過ごした。



卒業・修了の留学生



挨拶する鮎田学長



お世話になった方と談笑する留学生

あとがき

2012年度も多くの方々の協力を得ながら、国際交流センターの業務をこなすことができました。毎月、様々な催し物を企画し、実施してきましたが、留学生や市民の方々と共に、同じ時間を共有できたことは、センター教職員一同、非常にうれしく思っています。新年度(2013年度)も、国際交流センター教職員一同全力で業務に当たりますので、よろしくお願いいたします。

